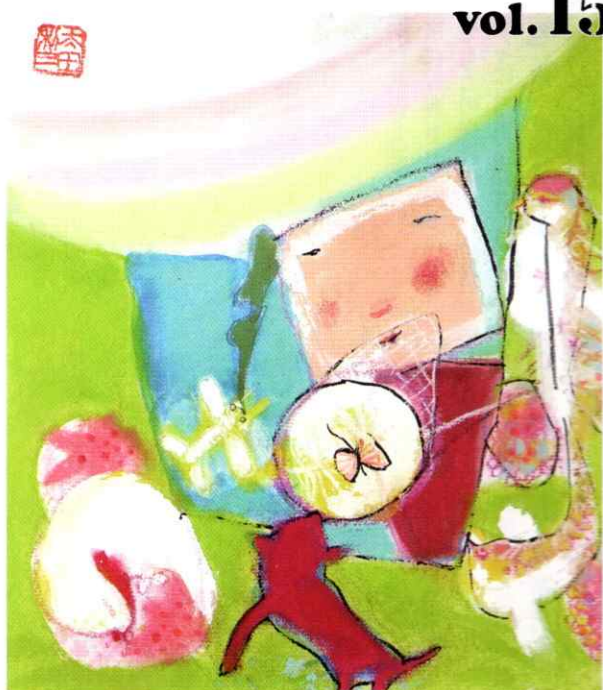


認定 NPO 法人四つ葉のクローバーと支援者を結ぶ小冊子

四つ葉通信

vol.15



絵：太田利三

◎四つ葉インタビュー／第14回：兵主太郎（仮名）さん
カリスマ美容師めざして、頑張りたいと思っています。



困難を抱えた若者の自立を支援するスポット

Mother Board

昨年4月、平和堂財団様よりご寄付をいただき、県社会福祉協議会、児童相談所、児童養護施設、県青少年局、里親会、障害者福祉等で構成団体を作り「滋賀県地域養護推進協議会」がマザーボードに発足いたしました。施設出身者でなくとも貧困や虐待などシンドイ状況の若者を地域で支えよう。これが「地域養護」の考え方です。まず民間で事業をはじめ、県の委託事業で実施しています。この半年間で支援人数は増え続けていますが「たらい回しをしない」をモットーに統括員と相談支援コーディネーターが走り回っています。



▲マザーボードの外観

◎伴走型支援 「心を支える」

◎緊張せずリラックスして関われる事が大切

【若者食堂】原則毎月最終土日の二日間実施。

【休憩所として】仕事や学校から帰宅前に立ち寄り、のんびりしたり気持ちを整えます。



▼帰宅前に集まって来る若者たち

▲若者食堂の様子



【オープン時間】

月～金曜日 9:00～17:00

滋賀県地域養護推進協議会

〒524-0022

守山市守山 6-10-68

マザーボード内

TEL:077-582-2221

FAX:077-582-2330



「四つ葉みらい基金」ご支援のお願い

進学や資格・免許の取得など、「子どもたちの未来」を応援していただけませんか？ WEB サイトからお申込みできます。
(QRコードを読み込むと、支援サイトに繋がります)



独立行政法人福祉医療機構
山和助成 社会福祉振興助成事業

この冊子は、
WAMの助成金を受けて作成しました。

新年あけましておめでとうございます。



認定 NPO 法人四つ葉のクローバー
理事長 杉山真智子

旧年中は皆様にご支援を賜り深く感謝いたします。

新型コロナウイルスの影響で、誰もが思いがけずこれまでとは違う生活を強いられたこの2年間。コロナが発生したときに「コロナなんて怖くない。家にいる間、親からどれだけ怖い目にあってきたか・・・テレビでコロナが怖いとか不安と言っているのを聞いてチャンチャラおかしい」と話していた四つ葉の若者たち。奇跡的に全員がコロナにかからず、元気に年越しをさせていただくことができました。内心はヒヤヒヤでしたが、本当にありがたいと心から思っております。

「若者支援」というキーワード。

若者主体ではありますが「若者の言うとおりにしなければいけない」というわけではないと考えています。様々な状況から現実的な制約も当然あり得ます。時には「四つ葉は何もしてくれない、職員の言葉に傷ついた」など、耳を疑うような言葉が返ってくることもあり、スタッフは愕然とすることもあります。大人も傷つくのですから。子ども・若者と同様に大人も意見があり、対等な意見として対話を続け、合意をしながら前に進んでいくことを大切にしていきたいと思えます。

私の楽しみは NHK 大河ドラマ「青天を衝け」をみることです。渋沢栄一と奥さんの千代が「東京養育院」を訪れて、ボロボロの古着を着た、愛に飢え、感情を押し殺して生活をしている子どもたちに裁縫を教え、慈愛に満ちた表情で子どもを見守り、針で指先をケガしても我慢する少女に「痛かったら泣いてもいいんだ。誰だって、大人だって子どもだって、血がでれば痛いんだから。よくがんばったね」と優しい言葉をかけるシーンに涙しました。私なら「ポーとしてるからやん。ちゃんと見て気をつけないとあかんやろ」と言いそうだからです。

「心根が優しい人」

真からそんな人になりたいと思います。コレラで亡くなり「千代ロス」であります。「千代のように若者たちの心の声をきいているか」——自問自答し、精進してまいります。本年も皆様のご支援を賜りたく、何卒よろしく願いいたします。

カリスマ美容師めざして 頑張りたいと思っています。

兵主太郎さん（仮名：18歳）



中学生から高校にかけて父親から食事抜き、バイト代搾取という虐待を受け続けてきた太郎さん。バイト先のパートの女性によって児童相談所に連絡がいき、一時保護所を経てようやく四つ葉のクローバーにたどり着きました。小さい頃からの心理的虐待ゆえ「理不尽なことでも仕方ない」と受け入れてしまう「性格も少しづつ改善の兆しが見え、高校卒業後は美容学校への入学も決定。将来のカリスマ美容師めざして一歩ずつ前を向いて歩みを始めています。

**食事抜き、バイト代搾取
という虐待を父から受け続けた。**

両親が離婚したのは、僕が小学校1年生くらいの時です。物心ついたときから父親に育てられてきました。父は昔、料理人をやっていたからご飯を作るのは上手かったです。でも僕が中学2年頃になると、突然僕だけメシ抜きになりました。理由は

よくわかりません。もしかしたら、母と連絡を取っていたのがバレたのがきっかけなのかもしれない。

父は普段は普通に優しい人なんです。父が、自分の波が激しいところか、怒り出すと手が付けられないところがあります。木刀で殴られたことも、何度かありました。携帯電話も解約され、食事も僕だけ食べさせてもらえません。妹がたまに父に隠れて内緒で握ってくれるおにぎりだけで、なんとか毎日の飢えをしのぎました。夜間高校に入ると、近所のファミレスでアルバイトを始めたので、稼いだお金でやつとまともな食事ができるようになったのです。

**パートの女性が初めて
自分のことを心配してくれた。**

そんな状況だったから、アルバイトのシフトを週5日くらいは入れていましたね。土日はもちろん、必ず働いていました。仕事は、ファミリーストランの調理場です。比較的年配女性が多い職場だったのですが、みんなに可愛がってもらって、楽しくやれていたと思います。状況が変わったのが、3ヶ月ほど経ってからです。今度は（母方の）祖父母の家に遊びに行つたことが父に見つかり、罰として通帳を取り上げられたのです。

父から毎月渡されたのは、家賃と税金を抜かれたお金だけ。バイト代なんて多くても、8万円くらい。少ないときは5万円程度ですよ。そこから家賃とか引かれたら、ほとんど残りません。定期代も払えないから学校にも行けなくなりました。そんな状況をアルバイト先で愚痴っていたら、同僚の女性が心配して児童相談所に連絡してくれたんです。中学でも高校でも先生に相談したのですが、誰も対応してくれなかったのに、パートのおばちゃんですぐ動いてくれた。彼女のことは、今でも本当に感謝しています。

退屈だった一時保護所。四つ葉に入つて、普通の生活を取り戻す。

児童相談所に状況を話すと、すぐに一時保護所に保護されることになりました。でもこの保護所での生活が、メチャクチャに退屈だったのも事実です。3食のご飯が食べられるのとは、とても難かつたけど、外出禁止なので学校にもアルバイトにも行けないんですよ。携帯電話も使えず、ただ毎日ぼーっと部屋の中で暮らしているだけ。午前中はプリント学習をやつて、午後にはひたすら本を読んだり、DVDを観たりして時間を過ごしました。

四つ葉のことを紹介されたのは、一時保護所にいたときです。1日でも早くここから出て、新しい生活を始めたかと思つていたので、見学に行くと即決で入所を決めました。だから、保護所にいたのは、だいたい2週間くらいだったと思います。

もう一度家に戻るといふ選択肢は、まったくなかったですね。2度と父親と暮らしたくないと思つていましたから。早く家を出たかったけど、これまではきつかけも行き先もなかっただけ。（僕がいなくなることに）父はとくにクレームを言わなかったと思いますよ。いつも僕に対して「早く、ここから出て行け！」と怒鳴つてばかりいたわけだから。

美容学校への進学が決定。カリスマ美容師をめざしたい（笑）。

四つ葉での生活は、快適ですね。同じ世代で、同じような境遇の仲間たちばかりが集まっているから、とても居心地が良いと感じます。僕の父親の話もたまにするけど、みんなの話も聞いていると「それにしても世の中にはヒドイ親がいるもんだ」と驚きますね。自分が受けてきた虐待なんて、大したもんじゃないとへんに感心するほどです。

ここに来て1番変わったのは、将来のことを考えられる余裕ができたことだと思います。母はもう再婚して、3人の子ともがいる。僕のことを心配してくれているけど、新しい家族もあるからそんなに何度も会えるわけはありません。祖母に引き取られていた兄は、自立してアパート暮らしを始めたそうです。誰にも頼ることができないから、僕は1人で生きていくしかないのです。

幸い、高校卒業後の進路も決まりました。大阪にある美容専門学校に入学することができたのです。もともとファッションには興味があったから、美容師の仕事は自分にあっているかも、と考えるようになりました。学校が大阪なので、四つ葉から通えるのもラッキーです。20歳まではここで暮らせるので、その間にアルバイトも頑張つて、お金を貯めなくちゃいけませんね。将来めざすのは、カリスマ美容師かな（笑）。いつか実現したら、お世話になった皆さんに連絡し、お安くカットしてあげようと思っています。

（聞き書き：戸原一男）